

# 目の健康

「かすむ」「まぶしう」  
放置せず早めの受診を

白内障とは、眼の中のレンズの役割をする水晶体が濁ってしまう病気です。加齢に伴って発生する場合が最も一般的で、80歳を超えるとほとんどの人がなんらかの白内障の状態にあるといわれています。濁りが進むと、物がかすんで見えたり、光がまぶしく感じたり、視力が低下するなどの症状が出ます。

進行を遅らせる点眼薬はありますが、濁った水晶体を元に戻す治療法はなく、進行した場合は濁った水晶体の代わりに「眼内レンズ」を入れる手術が必要で、手術の時期は、一般的には「日常生活に支障が出るようになった時」

で、多くの場合、手術は

あまり時間がかからず、痛みも少ないです。白内障手術は国内で1年間に140万件も行われている手術で、一見簡単で手軽に見えますが、熟練した眼科医が高度な手術機器を用いて、顕微鏡下で行う大変繊細な手術です。さらに、進行した白内障や他の目の病気によっては、手術が難しくトラブルが起こる可能性が高い場合や、早めに手術する方が良い場合もあります。

皆がかかる白内障と軽く考えて放置せず、気になる症状があったら早期に眼科の診察をお勧めします。

## 白内障チェック

片目ずつチェックしましょう

- かすんで見える
- まぶしい
- 明るいところで見えにくい
- 眼鏡が合わなくなる
- 二重、三重に見える

宮久保 純子 先生 プロフィール

昭和53年群馬大医学部卒業、同大附属病院眼科、前橋赤十字病院眼科、前橋協立病院眼科勤務、平成5年宮久保眼科開業 ■専門分野 / 涙疾患、眼瞼疾患、白内障、小児、日本眼科学会認定眼科専門医、日本眼科手術学会員

